

「かっこよくあたたかく そして人に気に入られる家を」



四代続く地元大工のプライド胸に

冬にはたくさんの雪が降り積もる新潟県阿賀野市にある宮崎建築は、明治から続く大工の家系の四代目の宮崎直也さんが、妻の康子さんと信頼を寄せる大工と3人で営む小さな工務店だ。その小さな工務店がつくる「あったかい家」が、地元の人たちに喜ばれている。「家は寒いもの」と思っていた人が、暖かくて快適な家に驚きながら、そこでの暮らしを楽しむ姿を見ることが、より良い家づくりを追求する宮崎さんの原動力になっている。



宮崎建築

所在地：新潟県阿賀野市下一分 1421
設立：1980年
社員数：2人
年間受注棟数：新築3～4棟、
改修1～2棟
新築平均坪単価：約75万円
年間売上高：約1億円

宮崎直也さんと妻の康子さん。両親と3人の子どもたちと暮らす笑顔が素敵
な「あったかい家」をつくっている

コロナの外出自粛期間も 「ストレス感じなかつた」

宮崎さんは最近、1年半ほど前に引き渡したオーナー宅をひさしぶりに訪ねたところ、家族から「家は快適だし、子どもたちは庭で遊べるし、コロナの外出自粛期間もほとんどストレスを感じなかつた。家ができるからは家で過

ごすのが楽しくて外食もあまりしなくなっていたから、外食ができないことも全然気にならなかつた」との言葉をかけられ、感謝されたという。「つくり手冥利に尽きる。すごくうれしかったし、自分の家づくりへのこだわりが報われたように感じた」と宮崎さん。これからも地道にいい家をつくり続けて

いこうと改めて決意を固めた。
寒冷地で積雪も多い地域で、暖かくて経済性(省エネ)にも優れる家をつくっていこうと決めたのは9年前の東日本大震災がきっかけだ。「なぜ、震災が自分の決心につながったかは自分でわからぬが、被災地の光景をテレビ越しに見たとき、とにかく『いい家

をつくらなきや』といてもたってもいられなくなった」と振り返る。
震災の直後に、新住協(新木造住宅技術研究協議会)が提供する外皮性能や暖冷房エネルギー消費量が計算できるソフト「QPEX」を購入し、快適で省エネ性能が高い家づくりを突き詰めしていく方向へ踏み出した。その後

